

【高等学校用】

令和7年度学校評価 計画

学校名	佐賀県立嬉野高等学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要（簡潔に）	◎いじめの未然防止・早期対応に向けた取組において、いじめの正確かつ積極的な認知と対応。 ◎業務改善・教職員の働き方改革の推進を加速化し、完全定時退勤日の実施に向けての取り組み。
-----------------------	---

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	◎工業科、総合学科が併置された「ものづくり教育・ひとづくり教育」を実践する高校として産業社会の変化に対応できる専門的な知識・技術や、これからの社会で生き抜くために必要な力の育成。 ◎校舎制の利点を活かして地域社会と深く関わりながら、地域の活性化に貢献できる産業人の育成。
----------------------------	--

達成度(評価)
A:十分達成できている C:やや不十分である
B:おおむね達成できている D:不十分である

3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー ○お互いを尊重しながら個性を伸ばし、地域とともに歩み、幅広い知識と高度な技術を身に付けて社会に貢献できる生徒の育成。 ○高い目標を持ち、学校の核として積極的に活動することができ、部活動を通して学校の活性化に貢献できる生徒の育成。	カリキュラム・ポリシー ○地域社会に開かれた教育課程。 ○5つの学習領域(機械科・電気科・建築科・社会福祉系列、商業系列)の専門性の相乗効果を生み出す教育課程。 ○地域社会に密着したキャリア教育の推進。	グラデュエーション・ポリシー ○若い情熱で「躍動」し、全力で志の達成に向けて邁進する生徒の育成。 ○専門的知識・技能の習得を通して、心身ともに「錬磨」された生徒の育成。 ○基本的な生活・学習習慣を身に付け、人間性豊かな「敬愛」の心を持つ生徒の育成。 ○ものづくり教育、ひとづくり教育を通して、グローバルな視野から地域社会の課題を積極的に解決し、地域社会の発展に貢献しようとする態度の育成。	4 本年度の重点目標 1「校舎制」のメリットの最大化を通して、中学生および保護者から選ばれる学校づくりを目指す。 2生徒の個性・特性に応じた学習指導および生活指導を実践する。また、地域社会に貢献する高い専門性を有する生徒を育成する。 3生徒の社会的自立に向け、主体的に学ぶ力、資格、専門的な技能や高い学力を身につけさせる。 4社会的自立に向けた人間関係力の育成のため「両校舎合同行事」の充実を図る。
-------------	---	--	--	---

5 重点取組内容・成果指標	中間評価	最終評価	
---------------	------	------	--

(1)共通評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○基礎学力を向上させる。 ○「わかる授業」の実践と質の向上をはかる。	○家庭学習時間の調査・呼びかけを行い、家庭学習の充実を目指す。 ○小テスト(塩田)、朝テスト(嬉野)を年間通して実施し「正答率7割以上 70%」を目指す。 ○授業アンケートの実施を通して「わかる授業実施率80%」以上を目指す。 ○教員同士による授業研究を行い授業の質を高める。	・定期的な家庭学習の記録調査を実施する。 ・小テスト、朝テストの前に事前課題を準備し、生徒の自宅学習を行う時間確保を図る。 ・わかる授業の実践のため、アンケートをもとに教師の日々の授業の工夫と改善に務める。 ・相互授業参観期間を年間2回設ける。						教務主任(両) 学年主任(両)	
	○探求心の向上をはかる。	○専門教科で資格取得指導を行い、前年度合格率の「10%UP」を目指す。	・各専門教科で積極的に資格取得指導に努める。 ・昨年度を振り返り、教科で課題を共有し、指導を行う。						各科・各系列主任(両)	
	○ICT機器を活用した授業の実施とDX化の推進をはかる。	○電子黒板・学習用PCの教育活動における利活用「70%以上」を目指す。	・校内研修を通し、全職員の取り組みを共有する。 ・「オンライン授業」の実践に取組む。 ・「DX」への取組みを行う。						ICT担当(両)	
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動を実施する。	○人権・同和教育の全体計画に基づいて、授業を行った教員「100%」を目指す。	・人権・同和教育講演会を実施する。 ・「情報」「HR活動」において情報モラル教育、進路保障、人権教育を実施する。						人権・同和教育担当(両)	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実をはかる。	○法によるいじめの正確かつ積極的な認知及び適切な対応の「100%」を目指す。	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを見直し、全職員に周知する。 ・いじめの対応等についての研修・会議を「年3回」以上行う。 ・学年・生徒指導部・教育相談担当等が情報共有を行い、連携を図る。						生徒指導主事(両) 教育相談担当(両)	
	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動を行う。	○「佐賀県に誇りや愛着を感じる」「どちらかというと感じる」と回答する生徒「90%」以上を目指す。	・各地域の郷土学習資料や「佐賀語り」等を活用した授業に取り組む。 ・郷土の人材を活用した講演会・体験授業を実施する。						さが語り担当(両)	
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」を確立させる。 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」をはかる。	○朝食をとって登校する生徒「90%」以上を目指す。 ●「健康に良い食事をしている」生徒70%以上を目指す。	・生活状況調査、食に関する意識調査を実施する。 ・食育だよりを年間3回以上発行する。 ・保健だよりを年間10回以上発行する。 ・健康診断結果に基づく早期治療の指導を徹底する。						保健環境主任(両) 養護教諭(両)	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減する。	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○時間外勤務の時間数を年平均で5%削減する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの	・定時退勤日+1を設定する。 ・長期休業中における学校閉庁日を設定する。 ・部活動休養日を設定する。 ・ICTを活用し、業務の効率化を進める。						副校長(両)	
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する専門性を高め、支援を必要とする生徒に対して、有効な支援を行う。	○特別支援教育に関する専門性が高まったと回答する教職員が80%以上を目指す。	・特別支援教育に関する職員研修の実施する。 ・ケース会議実施と関係者間の情報共有を行う。 ・SC、SSWの積極利用を促す。 ・個別の支援計画を作成する。						教育相談担当(両)	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○進路実現100%	○生徒の希望進路を実現させる。	○キャリア教育の充実のための研修を行う。	・外部からの専門技術者を講師として招聘する。 ・校外での就労体験(インターンシップ等)の推進を行う。 ・企業説明会等への積極的参加を行う。							進路指導主事(両)	
○身だしなみ指導とマナーアップ	○社会人として必要な身だしなみ、挨拶の質の向上を図る。	○すべての授業、教育活動で身だしなみ指導、挨拶指導を実践する。	・毎日登校時に生徒指導部を中心に身だしなみ指導、挨拶運動を行う。 ・授業の始めには身だしなみチェックを行う。 ・挨拶指導を推奨する。							生徒指導主事(両)	
★唯一無二の誇り高き学校づくり	○入学者選抜において1.0倍を超える志願倍率を目指す。	★「自分の学校を中学生に勧めることができる。」という生徒の割合「78%」、教職員の割合「85%」を目指す。	・SNS等を活用し、学校の魅力を積極的に発信する。 ・高大連携事業に取組む。							教務主任(両) 研修広報(両)	
	○校舎間の連携・協力体制の充実させる。	○年間12回以上、オンライン・対面を併用した講演会、合同行事等を開催する。	・生徒同士のつながりを深めるために文化祭・スポーツイベント・キャリア学習等を合同で実施する。							教務主任(両)	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

6 総合評価・ 次年度への展望（簡潔に）	・ ・ ・
-------------------------	-------------